

熱のVoice ①

強みホルダー編

中部国際空港エネルギー供給株式会社
技術・運用部長

伊東 政夫



「塵も積もれば山となる」。

費用対効果が高い取組みを積み重ねて改善を進めていきたい」

主なお仕事の内容を教えてください。

伊東 弊社では、中部国際空港など空港島内の7カ所のお客さまに熱供給を行なっています。島という環境を活かして、海水を活用しているのが特徴です。私は技術・運用部長として、主に省エネ・省コスト化のために、機器やシステム運用の改善を担当しています。

お仕事に活かしているあなたの強みや特徴を教えてください。

伊東 以前、自動車会社に勤めておりまして、その時の「改善」の知識が大いに役立っています。業種は違っても、現場を一番理解しているの

はオペレータです。やはり、彼らとの意思疎通のしやすい環境づくりから改善が始まります。例えば一昨年、(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター主催の「蓄熱システム運転管理等の改善事例」表彰で優秀賞をいただきましたが、オペレータの皆さんとの円滑な意思疎通は、受賞のための改善策を生み出す大きな一要素だったと思います。

お仕事の喜び、楽しさ、やりがいなどを同僚と教えてください。

伊東 アイデアを活かし、費用対効果が高い改善が実現できると、喜びを感じます。弊社は2012年度、2013年度と二年連続で赤字決算だったのですが、その際に、オペレータの皆さんと技術・運用部が一体となってたくさんの改善に取り組みました。最も効果が大きかった取組みは、電動冷凍機やヒートポンプの冷却水を冷やす熱交換器の海水流量を増やし、伝熱面積も増やして冷却水温度を低下させ、電動冷凍機等の運

転効率(COP)を向上させたことです。それは、中間期に海水ポンプと熱交換器を自動運転での2台運用から、手動運転に切り替えて強制的に全3台の運用にするという方法でした。これにより、システム全体として、約93MWh/年ほどの省エネを達成しました。このようなコストをかけない改善策を積み重ねています。

今後の目標をお聞かせ下さい。

伊東 開港当初の設計思想にとらわれず、今現在の日頃の運転データを解析・評価して、改善を進めてきました。改善は工夫次第でさらに進化できます。小さな対策でも積み重ね、「塵も積もれば山となる」を実践していきたいと思っています。

伊東 政夫氏 (Ito Masao) 略歴

2008年1月1日中部国際空港エネルギー供給(株)に outward。特級ボイラー技士、第一種冷凍機械責任者、二級小型船舶操縦士免許等々20近くの資格を保有。現在、日本ボイラ協会愛知支部ボイラ相談員。

(取材：水谷克巳 広報委員)

主催 一般財団法人 ヒートポンプ・蓄熱セ



(一財)ヒートポンプ・蓄熱センター主催「蓄熱システム運転管理等の改善事例」表彰式にて